



「過去からのメッセージ—大阪発掘30年—」展示風景（弥生文化博物館撮影）

もくじ

- P. 2 ● センター設立30周年記念『過去からの
メッセージ—大阪発掘30年—』
- P. 3 ● 当センター設立30周年記念式典を実施
● 平成14年度文化財講座
- P. 4 ● 郷土の文化財を見学する会
● 第46回大阪府埋蔵文化財研究会
- P. 5 ● 第13回考古学国際交流研究会の実施
● 藤澤一夫理事 卒寿祝賀会
● 小林行雄先生とコンピューター
- P. 6 ● 全埋協 中国研修

- 私たち こんなことしています
● 共同研究の実施
- P. 7 ● ふるさとのお雑煮会
（日本民家集落博物館）に参加して
● 新潟の雑煮
● 大庭 脩近つ飛鳥博物館館長を悼む
- P. 8 ● 弥生文化博物館 春の展示ご案内
● 近つ飛鳥博物館 春の展示ご案内
● 日本民家集落博物館 催しご案内
（4月～7月）

センター設立30周年『過去からのメッセージ—大阪発掘30年—』

第8回目を数える今年度の速報展は、平成14年度が当センター設立30周年を迎えるのを記念して、財団法人大阪府文化財センター設立30周年記念『過去からのメッセージ—大阪発掘30年—』と題し、平成15年1月25日（土）～3月23日（日）まで、50日間開催。大阪府立弥生文化博物館平成15年冬期企画展として、同博物館特別展示室を会場として、センターがこれまで実施した発掘調査の代表的な優品と最新の調査成果を合わせて40遺跡700点余を展示し、センターの発掘調査のあゆみを紹介する公開展示となった。泉大津市教育委員会、和泉市教育委員会、財団法人大阪21世紀協会の後援を得ることができた。会期中の行事として講演会、主要遺跡調査成果報告会を行った。

特別展示室の入り口正面には、タイトルと土面をCG加工した「いこか」とよびかける展覧会のマスコットとなる図像を描いたシルクスクリーンの懸垂幕を天井から吊るし、仏並遺跡の土面、下田遺跡の銅鐸、美園古墳の家形埴輪（重要文化財）を配置しハイライトコーナーとした。また、中央展示では、この他の優品、下田遺跡出土短甲、朱塗り剣把、琴、環状形木製品等の木製品、難波宮北西部出土木簡、この秋に出土した讃良郡条里遺跡奈良時代の絵馬（レプリカ、後半実物展示）、和泉市教育委員会から借用の池上曾根遺跡の各種遺物を配し、センター30年の歩みと発掘調査と整理の作業の様子を展示。周りの壁ケースには最新の資料を時代順に展示するという二部構成となった。主なものとして石器製作跡が北摂で初めて見つかった粟生間谷遺跡、縄文時代では向出遺跡の報告書が刊行され、土器編年に基づいた展示や川原城遺跡前期石器接合資料等の紹介、弥生時代では河内平野で最古の若江北遺跡前期土器や後期の湊遺跡の製塩土器等、古墳時代は久宝寺墳墓群供献土器、大庭寺遺跡初期須恵器、亀川遺跡祭祀遺構出土の滑石製玉類、手づくね土器、製塩土器、古代は官衙、有力氏族の居住地と見られる丹上・真福寺遺跡、駒ヶ谷遺跡、小阪合遺跡、宿久庄西遺跡、室町時代は中世の港湾都市と考えられる伽羅橋遺跡の多くの陶磁器類、近世では14代続いた外様大名青木氏の麻田藩陣屋跡出土の大量の陶磁器類、近現代は大坂城跡出土の進駐軍関連資料である認識票があげられる。ポスター、ちらしで表現された展示の象徴となった土面のあどけないひょうきんな表情とは裏腹の詳細な展示となった。

会期内行事として水野理事長の『新発見で激動する考古学』の講演と金関館長の対談を開催、250名の参加があった。また、主要遺跡調査成果報告会も2回実施し、センターの大きな事業である第2京阪道路建設、恩智川治水緑地造成、久宝寺操車場市街地再開発、南阪奈道路建設に伴う調査成果を当センターの担当職員が報告し、170名、120名の参加があった。

この他に、今回の展示のイメージソングとして『ふるさ

とをみつめてみよう』（すずききよし作詞作曲）を講演会、報告会で演奏し、講演、報告を目的にこられた方は驚かれたようだが、一緒に歌う人もおられた。

また、毎日曜日・祝日には、会場でセンター職員による展示解説を行い、BSによる説明だけでなく直接聞け、質問もし易いと好評であった。更に「どめんでおめん・どめんでメイク」としてぬりえコーナーを設けたが、子ども達に好評で、幼児～小中学生の子ども達は203点、高校生～70才迄の大人の方では32点の応募があり、館内に飾って皆さんに披露した。また、「土面が訴える“過去からのメッセージ”」を会期中募集したが、小中学生の部114通・高校生以上の部33通と応募が数多くあり、各3点の心に残るメッセージを選考し賞を贈呈することになっている。

この他にも、平日に行うウィークディセミナー『縄文の仮面と弥生の神々』の講演会を開催し、130名の参加があった。また、親子対象にワークショップ「家族で土面—ねんどで縄文人の仮面をつくろう—」を企画募集したところすぐに定員オーバーになり33名の親子がそれぞれの土面作りを楽しんだ。

このように、今回の速報展は、展示が専門的になった反面、いろいろな行事を開催し、また、インターネットでも広く紹介したりということで、外へ出ることが億劫になる季節の展覧会であったが、入館者数6,704人を数えることができた。

会期中の行事（午後2時～4時・弥生文化博物館1階ホール）

講演会

2月2日（日）

「新発見で激動する考古学」 センター理事長 水野正好氏
対談 弥生文化博物館館長 金関 恕氏

主要遺跡調査成果報告会

2月16日（日）

「北河内の新様相」 一瀬和夫
「久宝寺遺跡の調査成果」 奥村茂樹

3月2日（日）

「池島・福万寺遺跡—田んぼの2300年—」 中尾智行
「丹上遺跡・真福寺遺跡の調査成果」 三好孝一

その他

ウィークディセミナー「縄文の仮面と弥生の神々」 渡邊昌宏

3月6日（木）午後1時30分～3時30分・1階ホール

ワークショップ「家族で土面—ねんどで縄文人の仮面をつくろう—」

内田正俊 石神幸子

2月23日（日）午後1時～3時・セミナー室



講演会 水野理事長・金関館長の対談（弥生文化博物館撮影）

当センター設立30周年記念式典を実施

1972年11月28日に設立された当センターは、2002年11月27日、30周年を迎えた。設立時の名称は財団法人 大阪文化財センターであったが、1985年4月1日に設立された財団法人 大阪府埋蔵文化財協会と、1995年4月1日に統合して、財団法人 大阪府文化財調査研究センターとなった。さらに、2002年4月1日には財団法人 大阪府博物館協会と統合して、財団法人 大阪府文化財センターとなったように、統合をくりかえして30年目を迎えることになったのである。

設立30周年の記念行事は、2002年12月8日（日）に大阪市都島区のリバーサイドホテルで行われ、当センター役・職員の他、当センターのOB、大阪府教育委員会関係者、全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック加盟法人関係者等約140名の参加者があった。

第一部としては、当センター水野正好理事長による「センター30年を振り返って」と題する講演が行われた。

続いて行われた記念式典では、水野理事長の開催挨拶の後、竹内 脩大阪府教育委員会教育長と、辻村泰善（財）元興寺文化財研究所理事長による祝辞があり、続いて坪井清足当センター顧問と堅田 直当センター理事から、設立30年を迎えた当センターに対する言葉が述べられた。記念式典の後、当センター岩田光利理事による乾杯発声を合図に、祝賀パーティーに移った。

祝賀パーティーの中で、大阪府立弥生文化博物館 馬場恒夫副館長、同・近つ飛鳥博物館 玉崎勝治副館長、日本民家集落博物館 井藤 徹館長、森 繁当センター前専務理事、中西靖人同調整課長等によるスピーチと、昨年4月1日付で（財）京都市埋蔵文化財研究所から当センターへ出向している前田義明・木下保明・長戸満男 3氏の紹介が行われ、中山重光専務理事が締めくくりの挨拶を行った。

会場前のロビーには、設立以来の本部事務所のあった場所や建物の他、記念行事の写真パネルが掲示された。

なお、設立30周年記念刊行物として、『30年のあゆみ』、『大阪文化財論集Ⅱ』、『摂河泉発掘資料精選Ⅱ』の3冊を刊行した。後の2冊は、若干部数を販売している。



水野理事長の講演

平成14年度文化財講座

近年の発掘調査により、各地で弥生時代・中世・近世と各時代の港の遺構が検出され、具体的な港の様子があきらかになってきている。弥生時代の長崎県壱岐原の辻遺跡、岡山県上東遺跡、中世の港町として昔から有名な広島県草戸千軒町遺跡のほかに、最新の調査成果として兵庫県尼崎市大物遺跡、高石市伽羅橋遺跡などがあげられる。近世では、福岡県博多遺跡群、長崎市出島商館跡や唐人屋敷跡が発掘調査により姿をあらわし、描かれた絵図と比較対照することにより当時の状況をより具体的にとらえることができるようになってきている。今年度の文化財講座は、『考古学から港を語る』というタイトルで、それぞれの時代の港・港湾都市の様子を発掘担当者にお話しいただいた。

中世の港町からは、国内各地の焼き物や中国大陸・東南アジアなどの陶磁器が大量に出土し、物資輸送の要衝として国内のみならず、海外との交流も盛んに行われていた中世の人々の活躍の場である港町が明らかになった。近世の港湾都市として栄えた博多港、長崎港も然りである。

調査例の少ない古代の港については、『古代の大阪湾岸開発』と題して当センター水野理事長にご講演いただいた。大阪湾岸の港一住吉津、桑津、三津、敷津、難波津、堺大津、石津、紀津―大阪湾岸港湊網は宮都・倉群・大道・陵墓の造営と共に整備され、古代史上、大きな役割を果たしたという壮大なお話であった。その中で、これまで仁徳天皇陵の築造は5世紀前半・6世紀前半との論争があるが、その造出部から発見された須恵器甕の年代から5世紀前半築造説が有力になったという経緯をご披露いただいた。

また、長崎は西洋文明の窓口としての歴史上有名だが、中国との関係が最も大きな比重を占めており、その点をもっと取り上げていきたいというお話は印象的であった。

また、古代史の大阪市立大学大学院教授榮原永遠男先生に正倉院文書から奈良時代の流通を紐解いていただけたことは幸いであった。

今年度は、受講者延べ人数は1,449名、全講座受講者は44名である。最も多い時で185名、少ない時で118名、平均66.5%の参加率であった。（会員218名）



第5回 榮原永遠男氏

郷土の文化財を見学する会

第7回例会は平成14年12月7日（日）に和歌山市内の遺跡と史跡をバスツアーで訪れました。

講師の富加見泰彦氏には幕末の加太砲台跡や紀淡海峡沿岸部に点在する古代の製塩遺跡はじめ、木ノ本古墳群、大谷古墳や紀伊風土記丘にある岩橋千塚等の各遺跡を解説していただきました。

さらには、幕末の庄屋であった中筋家修理現場への訪問や車駕之輿古墳の見学、同古墳出土遺物の観察も特別に便宜を図っていただき見学できました。

参加者は講師の製塩遺跡や古墳の説明、中筋家修理現場の職員の解説を熱心に聞かれ、質問もされていました。

また、加太に砲台跡があることをご存知無い方々も多く、一様に驚かれていたことが印象的でした。

第8回例会は平成15年1月19日（日）に「天下の台所の面影を歩く」と題して大阪市内の道修町、中之島周辺を探索しました。

大阪歴史博物館で文献面から大阪を研究されている八木滋氏に、近世を中心とした大阪（大坂）が商都としての基盤を形成する様子を解説していただきながら、当時の面影が残る界隈を歩き、道修町の葉の資料館を訪ねました。

会員の多くは大阪市及び近郊に居住し、ゆえによく利用する街中ですが、その歴史を詳しく知る事は少なく、改めて大阪の歴史を振り返る良い機会であったと思われます。

第9回例会は2月16日（日）に大阪府立弥生文化博物館にて当センターが主催した展示会「過去からのメッセージ—大阪発掘30年—」を午前中参観し、午後は当センター技師による発掘成果報告会へ参加して頂きました。

第10回例会は伊丹市の伊丹郷町を訪れました。

伊丹市教育委員会で発掘調査を手がけておられる小長谷正治氏に講師をして頂きました。

伊丹は伊丹（有岡）城を中心とする中近世の代表的な町ですが、伊丹と言えば飛行場と言うイメージしか持たれていない方が多く、街を訪れたことで当地に対する印象が変わった方が大勢おられたようでした。



第7回例会 和歌山市大谷古墳にて

第46回大阪府埋蔵文化財研究会

平成15年3月1日（土）に第46回大阪府埋蔵文化財研究会を開催しました。

「古墳時代前期における墳墓の発掘調査—最近の事例から—」が今回のテーマであり、7本の発表と1本の記念講演を行ないました。

大阪府内では古墳時代前期の古墳をはじめとする墳墓の発掘調査が最近増えています。そこで、これら最新の事例の報告を一堂に会して行なうこととしました。

また、本年度で長らく勤められた大阪府を退職される石神 怡氏に記念講演をお願いしました。

発表は当センター後川 恵太郎の「久宝寺遺跡墳墓群の調査」から始まり、交野市教育委員会真鍋 成史氏の「鍋塚古墳の発掘調査概要」、当センター木下 保明の「小路遺跡の調査」で午前の部を終りました。

昼食をはさみ、午後は貝塚市教育委員会の上野 裕子氏による「史跡 地蔵堂丸山古墳の調査」、和泉市教育委員会白石 耕治氏の「和泉黄金塚古墳の調査」、高槻市教育委員会高橋 公一氏の「關鷄山古墳の調査」、大阪市立大学岸本 直文氏「玉手山7号墳の調査」の各発表が行なわれ、事例報告を終えることができました。

さらに、休憩の後、大阪府立弥生文化博物館石神 怡氏の「弥生のこと、博物館のこと」と題した記念講演が行なわれ全ての行事が終了しました。

古墳時代前期の墳墓の発掘調査がこれほど同時期に大阪府内にて行なわれることは珍しく、中には關鷄山古墳のように全国的にも注目されている遺跡の調査の報告を含め、研究会を行なえたことは幸運でありました。それだけに、関心も高く、関東方面からの会場についての事前の問い合わせも多かったので期待はしていましたが、雨が降りしきる中、都心部でもない泉北の地に総勢100名を超える出席者があったことは喜びとともに驚きでもありました。

そして、発表及び講演は最新の事例を報告したものばかりであり、出席者には大変満足していただいたことと思われれます。



弥生文化博物館 石神 怡氏による記念講演

第13回考古学国際交流研究会の実施

2003年2月10日(月)から17日(月)までの間、韓国から蔡奎敦(新羅大学校博物館)、宋源永(金海市廳文化整備課)、李昶燁(韓国文化財保護財團)、金炳燮(慶南發展研究院 歴史文化センター)の4氏を招聘し、下記の日程で交流研究会を実施した。2月15日(土)に弥生文化博物館で実施した発表会『韓国の発掘報告』では、李昶燁氏「慶山玉谷洞遺跡発掘調査」、金炳燮氏「密陽サルネ遺跡発掘調査成果」と2本の発表が行われたが、スライドを使用しての、韓国における最新の発掘調査の貴重な紹介は好評であった。なお、通訳は奈良大学文化財学科の李賢恵氏にお願いした。

期間中、4氏は、当センター職員との交流は無論であるが、各訪問先をはじめ、いろいろの場で多くの成果と友人を得て帰国された。

日 程

- 2月10日(月) 来日、ホテルチェックイン (大阪泊)
2月11日(火) 近つ飛鳥博物館、狭山池博物館、歓迎会 (大阪泊)
2月12日(水) 本部事務所、泉北考古資料館、はさみ山遺跡発掘現場、柏原市高井田歴史公園、平野・大県古墳群、古市分室 (大阪泊)
2月13日(木) 橿原考古学研究所附属博物館、京都大学総合博物館 (大阪泊)
2月14日(金) 奈良文化財研究所、久宝寺遺跡発掘現場、池島・福万寺遺跡発掘現場、池島分室、中部調査事務所 (大阪泊)
2月15日(土) 発表会(弥生文化博物館)、速報展、池上曾根遺跡見学 (大阪泊)
2月16日(日) 日本民家集落博物館、大阪歴史博物館、送別会 (大阪泊)
2月17日(月) 帰国



弥生文化博物館での発表会

藤澤一夫理事 卒寿祝賀会

当センター理事で四天王寺国際仏教大学名誉教授の藤澤一夫氏が、昨年10月11日卒寿を迎えられ、11月30日、大阪市の都ホテル大阪で祝賀会が開催された。

当日は、同氏の親しい友人、教え子等150人が参加し、当センターの坪井顧問、水野理事長、堅田理事をはじめ、数多くの人がお祝いの言葉を述べられた。卒寿を記念して献呈論文集も刊行された。



挨拶される藤澤理事(森 郁夫氏提供)

小林行雄先生とコンピューター

わが(財)大阪府文化財センターも、世間並みにようやくパソコン1人1台時代を迎えることとなった。やや遅きに失したくらいはあるが、ホームページの立ち上げ準備も着々と進んでいる。

ところで、日本考古学界の重鎮で明治44(1911)年生まれの故小林行雄京都大学名誉教授が、コンピューターを利用しての研究について抱負を記された文献が、当センターの前身である(財)大阪文化財センターの刊行物の中にあることを知っている職員がどれ位いるのであろうか。小林先生ご生前の頃は大学の理系研究室には配置されていたであろうが、文系の研究室にはまだそれ程コンピューターは普及していなかったはずである。勿論、当センターなどはコンピューターはおろか、ワープロ以前の時代であった。

1984年9月29・30日に開催された、(財)大阪文化財センター主催の「第2回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会」の資料には「遺物の見方」と題する1頁分の小林先生の講演レジュメが掲載されている。その最後の3行に、「将来への展望としては、個々の遺物について、10個程度の観察項目を選び、記入した内容をコンピューターに入れることを考えたい。観察項目の具体例は三角縁神獣鏡について実行していることを参照されたい。」とあり、(昭59.9.7)と校了日も記入されている。(福岡澄男)

全埋協 中国研修

2002年11月26日～12月3日に実施された全国埋蔵文化財法人連絡協議会の中国研修に、当センターから巽利文、秋山浩三、信田真美世、井上智博の4人が参加した。今回は上海、杭州、合肥、南京、松江などを訪れた。そして、浙江省博物館の王明達氏、安徽省文物考古研究所の張敬国氏、南京博物院の王根富氏らにお世話になり、遺跡や遺物を見学させていただいた。

浙江省博物館では、反山遺跡、瑤山遺跡出土の玉器を、王明達氏に説明していただきながら、じっくりと観察することができた。さらに良渚文化博物館でも、王氏に案内していただいて良渚文化期の玉器を見学した。また、安徽省文物考古研究所では、張敬国氏の説明で凌家灘遺跡出土の玉器を実見することができた。これらの玉器はいずれも約5000～6000年前のものであるが、その形状や、そこに刻まれた文様は驚くほど繊細で、参加者全員が熱心に見学していた。なお、反山遺跡と凌家灘遺跡については現地も訪れた。反山遺跡ではトレンチがいくつか掘られており、墓に伴う盛土の状況を観察することができた。また、凌家灘遺跡は調査がおこなわれていなかったが、張氏の説明を聞きながら見学し、遺跡の立地などを理解することができた。なお、これらの遺跡が属する新石器時代後期については、都市の起源や国家の形成と関連して、近年活発に研究が進められており、中国考古学の現状を理解する上でも貴重な体験となった。

南京博物院では、6500～5500年前の三星遺跡から出土した遺物を見学させていただいた。訪問するのが夕方になったにも関わらず、王根富氏はひとつひとつ丁寧に説明して下さった。また、王氏には六朝期の鐘山壇類建築遺跡や南朝期の蕭績墓にも同行していただいた。今回の研修では、新石器時代の玉器をはじめとして様々な時代の遺物や遺跡を実見できた。参加者はそれぞれ、日本でおこなっている調査や研究のテーマを念頭に置いて見学していたようであり、研修内容を今後の調査・研究に生かすことが各自の課題といえる。(井上智博)



良渚文化博物館にて

私たち こんなことをしています

久宝寺遺跡の遺物整理をしている西村班の補助員は現在5名。それぞれ個性豊かなメンバーがわきあいあいとしながら一所懸命に作業をしています。現在我々のやっている主な作業は版下作り・接合・復原・実測等です。

別々に出土した土器棺が、1700年ぶりにくっついたり、久宝寺1号墳の遺物が出物です。その中でも当遺跡の目玉商品！「完形で出土した割竹形木棺」についてご紹介いたします。これはサイズが大きいので、裏側の実測をするには総動員でひっくり返さねばならないほどです。保存室の一角を借りて実測していますが、部屋が寒いので実測者は指がかじかむという状態だったり、木目だらけで青鉛筆がどんどん減っていき、追加注文までしたようです。

それはさておき、それぞれ佳境に入りつつある整理作業及び、報告書作成に丸となって奮闘中です！

(中部調査事務所 竹田博美・武智あゆみ・平田淑子・李聖子・渡辺亜紀子)



久宝寺遺跡 遺物整理の皆さん

共同研究の実施

昨年4月1日付で(財)大阪府文化財調査研究センターと(財)大阪府博物館協会が統合し、(財)大阪府文化財センターが発足したのを機に、(財)大阪府文化財センターと大阪府立弥生文化博物館、同近つ飛鳥博物館、日本民家集落博物館との間で、共同研究が行われることとなった。

テーマは、それぞれ「弥生時代のはじまり」、「『河内名所図会』にあらわれた遺跡の研究」、「住居に関する総合的研究」で、本年2月までに各々数回の研究会を行い、3月には各博物館で、一般向けの発表会を開催することになっている。この報告は次号で行う。

なお、共同研究の成果報告書を2003年度に刊行する予定である。

ふるさとのお雑煮会（日本民家集落博物館）に参加して

1月12日（日）・13日（月・祝）に日本民家集落博物館で行われた恒例の「ふるさとのお雑煮会」に参加した。今年は、例年おなじみの飛騨白川の「枳餅雑煮」に加え、新潟県の日本海沿岸部に伝わる「鮭雑煮」が供された。12日の夕方に行ったところ、「枳餅雑煮」は既に完売で、1碗300円也の「鮭雑煮」のみいただいた。

会場の大和十津川の民家には、まだ数組のお客様が囲炉裏の傍や縁側で雑煮を食べたり、話を楽しんでおられたが、さらに、数組の新たなお客様もおみえになった。外国の方も何人かいらっしゃる。みんな冬の民家の静かなひと時をじっくりと味わっておられるようにみえた。

兵庫県姫路市出身の私には、「鮭雑煮」は珍しい味であり、しかも何かしら懐かしい味でもあった。後で日本民家集落博物館にお聞きしたところ、大変好評のうちに2日間全て完売とのことであった。来年は何处のお雑煮がいただけるか、今から楽しみにしている。（福岡澄男）



十津川の民家でのお雑煮会（日本民家集落博物館提供）

新潟の雑煮

新潟には、鮭の遡上で有名な三面川があり、鮭は正月に欠かせない祝魚です。大根、人参、里芋、ごぼう、こんにゃく、かまぼこ、昆布とするめの細切り、塩鮭の頭と身を四角切りにし、だしでくつくと煮て、醤油味のすまし仕立て。最後にねぎとイクラを入れます。ゆでた角餅に、具と汁をたっぷりよそって出来上がり。見事な一碗です。

今は健康志向で、いくらかうす味になっていますが、ふるさとの味と心を、いつまでも伝承していきたいと思っています。来年は、どこのお国ぶりを賞味させていただけるか、いまからとても、楽しみです。（近藤 はま）
館より 今年の雑煮会では、新潟の鮭雑煮と飛騨白川の枳餅雑煮の2種類を提供させてもらった。2日間で400碗近い雑煮を提供でき、来館者に非常に好評を博した。なかでも鮭雑煮を提供するに当たり、事前準備から2日間にわたる料理並びに盛りつけをお願いした近藤ご夫婦のご援助とご支援に感謝申し上げます。



鮭雑煮

大庭 脩 近つ飛鳥博物館長を悼む

私たちの館長大庭 脩先生が平成14年11月27日お亡くなりになった。享年75歳であった。

葬儀はご家族による密葬だったが、直ちに皇學館大学・大阪府文化財センター・関西大学東西学術研究所の三者で先生を偲ぶ会の実行委員会が組織された。そして12月26日に箕面市グリーンホールにおいて「偲ぶ会」がしめやかに執りおこなわれ、研究仲間や教え子約700人が先生を偲んだ。

先生は漢簡研究の世界的な権威だが同時に江戸時代の日中関係史研究の草分け的な存在で、常に国際交流に眼を向けられていた。このことから、先生には、関西大学教授あるいは皇學館大学学長という激務の中で博物館創設準備委員長から初代近つ飛鳥博物館長をお

務めいただいた。

来年が開館10年という節目を迎えるだけに先生の死は、残念でならないし、あまりにも突然ただけに今でも信じられない気がしてならない。

写真は、ある日のセミナーで一コマ。先生の人柄がよくでている。

満面の笑顔でいつも暖かく私たちに接していただいた先生のご冥福をお祈りします。合掌。（山本 彰）



弥生文化博物館 春の展示ご案内

平成15年春季特別展 弥生創世記

—検証・縄文から弥生へ—

4月12日(土)～6月15日(土)

弥生時代はどのようにして幕を開けたのでしょうか。

縄文から弥生への時代の狭間にどのような社会変化が起こったのでしょうか。



最近の発掘成果だけではなく、従来から知られている資料や遺跡についても視点を当て、混沌とした時期の具体像を解明したいと思います。

時代の指標となる赤い彩色が施された土器
(佐賀県唐津市/奈畑遺跡)

■春季特別展考古学セミナー(全4回)

①4月20日(日)「弥生時代はどうして始まったのか—中国大陸からの視点で—」宮本一夫(九州大学教授)

②5月11日(日)「縄文人の弥生化!?!」
泉 拓良(奈良大学教授)

③5月18日(日)「弥生文化の形成と朝鮮半島」
西谷 正(九州大学名誉教授)

④6月8日(日)「木の実サイクルから稲作サイクルへ」
細谷 葵(早稲田大学比較考古学研究所研究員)

■春季特別展体験学習 5月24日(土)、5月31日(土)

◆サイト講座 「大阪に眠る弥生の墓」(全6回)

◆やよいミュージアムコンサート 4/27(日)、5/25(日)

◆ミニギャラリー 「和泉野の草花」 6/17～29 他

詳しくは博物館までお問い合わせください(0725-46-2162)

近つ飛鳥博物館 春の展示ご案内

平成15年度 春季特別展のお知らせ 「黄泉のアクセサリ—古墳時代の装身具—」

古墳時代のきらびやかなアクセサリを、重要文化財22品目を含む114品目展示します。これらの展示品を通してアクセサリの推移を辿るとともに、当時の人々がどのような思いで各種のアクセサリを採用し、身につけたのかに思いを馳せていただければと思います。

期 間：平成15年4月15日(火)～6月15日(日)

月曜休館(5月5日(月・祝)は開館、

5月6日(火)は休館)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで)

入館料：大人600円

高校生・大学生・65歳以上の方 400円

☆歴史セミナー

○5月11日(日)

京都橘女子大学教授 猪熊 兼勝

「古墳時代の装身具」

○5月25日(日)

奈良文化財研究所所長 町田 章

「古墳時代装身具のルーツを探る」

○6月8日(日)

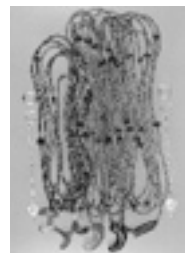
国立民族学博物館教授 大塚 和義

「北方民族文化からみた古墳時代のアクセサリ」

アクセス：近鉄長野線喜志駅下車、喜志駅より金剛バス
阪南ネオポリス行き終点下車、約600m

問合せ先：大阪府立近つ飛鳥博物館 TEL0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>



首飾りと耳飾り(重文)
宮山古墳2号主体
姫路市教育委員会

日本民家集落博物館 催しご案内(4月～7月)

◆囲炉裏に火を入れて

—いづれかの民家の囲炉裏又はかまどに火を入れます—
＜4/1(火)～6/28(土)の火～土曜10:30～16:00＞

◆押し花作品展と押し花教室

—風景画押し花・デザイン画押し花の作品展—
＜4/1(火)～5/15(木)/教室は土曜日のみ＞

◆解説ボランティアによる民家解説

＜4月～5月の各日曜日 13:00～16:00＞

◆「梅の撮影会」写真展 ＜4/12(土)～4/19(土)＞

◆民家模型展—古民家工房製作の民家ミニチュア模型展—

＜4/25(金)～5/1(木)11:00～＞

◆春のお茶会

＜4/27(日)、29(火)10:30～15:30/有料＞

◆子どもの日「懐かしの玩具プレゼント」

＜5/5(月)10:00～先着200名/幼小中生対象＞

◆故きを温ねて(豊中名所ウォーク/雨天決行)

＜5/24(土)9:30～13:00/要申し込み/有料＞

◆短編アニメーション「ウィルソンブラザーズ」上映会

＜5/25(日)11:00～14:00, 15:00～16:00/有料＞

◆昔話と紙芝居を親しむ会

＜6/7(土)10:30～, 13:30～＞

◆七夕飾り

＜6/29(日)～7/6(日)＞

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。

(TEL 06-6862-3137)